

笹戸温泉 ぐるっと散策路マップ

豊廣稲荷大明神

「無くし物を見つたい」という願いを叶うとされる豊廣稲荷大明神が、豊川稲荷大明神の分身として伝えられたのは、弘化元年(1844)頃だとされます。穂村元村長杉田一氏が、昭和34年4月29日天皇の尊厳に接し、皇風の用において御前舞にて舞音を賜り、名ある舞臺豊廣宝堂を授けり感涙の舞まで見ましたが、其巻記を紛失してしまいました。実に申す可くない百貫の念に燃えかね、四方八方手を振して探したにも向からず見つけることができませんでした。ある時、豊廣稲荷大明神の事を思いつくが「新撰」といふ、旬日(旧暦)で見つけることができたとの記述が残っています。



★ビューポイント

(このポイントから矢作川方面を眺めると景色が美しいです)

笹戸 歴史の散策路



浅間神社



1783年信州の浅間山が大噴火したとき、火の玉が笹戸八幡神社の裏山に飛んで来ました。一時期笹戸の温泉の水量が減少していましたが、それを機に回復しました。この事に因んで火の玉の落下した山を浅間山(セウケン)と称し、飛んできた火の玉(浴宮)をご神体として、八幡神社の隣に浅間神社を創建し、温泉の神様として祀り今日に至っています。

笹戸龍神



わかしとて龍を大明にするいかだのりのおじいさんかました。その日も子どもたちにじめられている龍を大声をあげて助けあげました。その後、おじいさんが眠ったと元元から声しました。「私は笹戸龍神だ、いつも龍を大切にしてくれてありがとう。お前の家を守ってやる。一生懸命働け、商売をやったならば早く。次の朝、おじいさんは家のそばの大蛇石の所に龍神さんを祀りました。以来、いかに乗るとは矢作川は穏やかで、お念にも雨がなく、家の人がいたいた病氣にもかからなくなったといひことです。現在では商売繁盛のご利益があるとして祀られています。

太子堂

一度に十人の話が理解できたといえられる聖徳太子に因んで、「耳」に関する災難から守りてくたさうといひことです。耳のつまりを治す一次を開ける一次を開ける道具として「鎌(きり)」を奉納してはうです。現在でも、奉納した鎌が残っています。毎年10月20日(旧暦)には例祭が行われています。



八十八弘法



回向日に弘法さん来宿すれば現世において、水難、火難と盗難から守れることができ、後生は善所に生れ変わる事があるなど、どんな願いも叶うといひ伝えられる弘法さん信仰。この地では天正4年3月21日(旧暦)小木山入り口を一番、太子堂を八十八番として開闢されました。昭和31年山の上から現在の橋沢となり小川を一番とする場所に移動されました。毎年3月21日(旧暦)には祭事が行われています。

笹戸 歴史の散策路

- 1 豊廣稲荷大明神 → 2 笹戸龍神 → 3 八十八弘法 → 4 太子堂 → 5 旅館街

10分 20分 5分 15分

笹戸 水辺の散策路

- 1 旅館街 → 2 水神 → 3 笹戸小橋 → 4 旅館街

10分 5分 10分



※一部、足元が滑りやすい場所があります。歩きやすい靴などのご用意をおススメします。